



# 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） *Nara IDSC*

## 今週の概要

- 第27週の感染症情報
- 手足口病が流行しています
- 病原体（ウイルス）検出情報（6月）
- 全数把握対象感染症発生状況（6月）

## 第27週の感染症情報（7月1日(月)～7月7日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位5疾患）（5週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	手足口病	4.47	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	1.56	↓	↓	→～↓	↓
3	ヘルパンギーナ	1.26	↑↑	↑↑	↑↑	↑
4	水痘	0.59	→～↓	→	→～↓	→～↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.47	↓	→～↓	↓	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

**県北部地区概況** 報告数（26→27週）は134→154例に増加した。上位5疾患は、①手足口（36→64例）、②ヘルパンギーナ（16→22例）、③病感染性胃腸炎（41→21例）、④A群溶連菌咽頭炎（15→11例）、⑤突発性発疹（6→11例）。眼科定点の報告は流行性角結膜炎が4例あった。基幹定点の報告は無菌性髄膜炎が1例あった。

（有山 記）

**県中部地区概況** 報告数は143例で、前週報告の103例から増加。上位5疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③ヘルパンギーナ、④水痘、⑤咽頭結膜熱の順で、手足口病が前週に引き続き第1位。手足口病の報告数（73例）は、ほぼ倍増。ヘルパンギーナの報告数（3→13例）は、増加。水痘の報告数（9例）は、やや増加。咽頭結膜熱の報告数（6例）も、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（31例）は、ほぼ横ばい。桜井HCおよび葛城HC両管内基幹定点と眼科定点からの報告は、すべてなかった。

（村井 記）

**県南部地区概況** 報告数（26→27 週）は 27→27 例と同数で推移。報告のあった疾患は、①手足口病（9→15 例）、②ヘルパンギーナ（10→8 例）、③突発性発疹（2→2 例）、④感染性胃腸炎（4→1 例）、④水痘（1→1 例）であった。

（柳生 記）

### ～手足口病が流行しています～

**警報レベル** 奈良市保健所管内、葛城保健所管内、吉野保健所管内  
（警報レベルは、疾患毎に定められています）



- ★手足口病は、口内炎ができて痛むため、口からものが食べられなくなり、哺乳力低下や脱水症になることもある。
- ★感染経路は、咽頭から出たウイルスによる飛沫感染、便中に出たウイルスによる経口感染、水疱内容物からの感染など。便中には回復後も長期間、ウイルスが排泄される。
- ★予防は、患者に近づかない、手洗いの励行など。患者や回復者は、特に排便後の手洗いが重要。

感染症情報センターホームページ  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>



## 【病原体（ウイルス）検出情報（平成 25 年 6 月）】

病原体定点医療機関から保健研究センターに搬入された検体について、6月に検出したウイルスは以下のとおりです。

（平成 25 年 6 月検出分）

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
ロタ A			1		感染性胃腸炎(1)
ノロ GI				1	感染性胃腸炎(1)
アデノ 1		2			感染性胃腸炎(1),咽頭炎(1)
アデノ 2		1	1		感染性胃腸炎(1),気管支炎(1)
エコー 11		1			ヘルパンギーナ(1)

## 【全数把握対象感染症発生状況（平成 25 年 6 月）】

平成 25 年 6 月に奈良県内の保健所に届出のあった全数把握対象感染症は、以下のとおりです。

6 月報告患者数（平成 25 年 7 月 1 2 日現在）

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	計
2 類	結核	4	8	11	6		1	30
3 類	腸管出血性大腸菌 感染症		1					1
4 類	マラリア		1	1				2
4 類	レジオネラ症	1			1			2
5 類	アメーバ赤痢		1					1
5 類	ウイルス性肝炎			1			1	2
5 類	クロイツフェルト・ヤコブ病		1					1
5 類	侵襲性肺炎球菌 感染症	1						1
5 類	梅毒	1						1
5 類	風しん	9	24	12	7		2	54

（感染症情報センター 記）